

週報①

広島市医師会臨床検査センター受託分 感染性胃腸炎検出状況(腸管病原菌含)

検出菌 ウイルス	2021年												2022年															
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月 ~7日	8月 ~14日	8月 ~21日	8月 ~28日	9月 ~4日	9月 ~11日	9月 ~18日	9月 ~25日	10月 ~2日
カンピロバクター	114	65	137	114	169	115	122	85	45	63	84	78	76	34	43	69	64	99	99	7	8	16	16	12	9	17	9	28
病原性大腸菌	39	25	52	61	55	64	63	45	42	102	62	44	29	41	37	62	88	90	30	12	10	12	19	15	13	5	6 (7)	13
腸管出血性大腸菌	1	0	0	0	1	2	3	2	0	3	2	0	0	0	0	0	1	1	10	0	0	1	1	0	0	0	0	1
サルモネラ	6	5	3	1	5	8	10	23	9	25	7	4	4	3	7	5	5	3	16	4	0	3	5	5	4	2	1	1
黄色ブドウ球菌 MSSA	14	16	33	19	39	25	17	15	20	26	21	12	35	12	25	20	32	22	26	7	3	6	3	3	3	2	4 (5)	6
黄色ブドウ球菌 MRSA	10	10	15	25	31	13	14	19	10	18	8	18	19	10	9	19	28	9	17	5	3	6	4	7	1	4	2 (3)	6
腸炎ビブリオ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	2	1	3	4	4	0	4	5	3	3	3	3	0	0	0	1	3	4	0	0	1	0	4	0	0	0 (1)	0
ロタウイルス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アデノウイルス	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	5	1	5	1	0	1	1	1	0	0
ノロウイルス	4	5	6	11	13	9	0	0	0	0	0	2	4	0	7	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0

* ()は前回集計後に新たに検出された件数を含めて表示しています。
* 前回のその他の1件は、アエロモナスでした。

週報②

広島県感染症・疾病管理センター(ひろしまCDC) 感染症週報

令和4年第39週(9月26日~10月2日)

2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名	計	西部	西部東	東部	北部	広島市	呉市	福山市
一類	0	発生なし	0							
二類	6	結核	6			1		5		
三類	1	腸管出血性大腸菌感染症	1							1
四類	8	重症性熱性血小板減少症候群	1					1		
		日本紅斑熱	6	1		3		2		
		レジオネラ症	1					1		
五類	19	アメーバ赤痢	1						1	
		カルバペネム耐性腸内細菌感染症	1		1					
		急性脳炎	1					1		
		劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	1						
		侵襲性肺炎球菌感染症	1					1		
		梅毒	14					14		
新型コロナウイルス感染症	7,444	新型コロナウイルス感染症	7,444	874	595	575	155	3,533	437	1,275

注) 西部…大竹市、廿日市市、府中町、海田町、熊野町、坂町、安芸高田市、安芸太田町、北広島町、江田島市
東部…三原市、尾道市、世羅町、府中市、神石高原町
西部東…竹原市、東広島市、大崎上島町
北部…三次市、庄原市

● 詳しい流行状況は、広島県感染症・疾病管理センターのホームページをご覧ください。 <https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/>

1 新型コロナウイルス感染症

第39週に3,533件の報告がありました。新規感染者数は減少傾向が続いています。引き続き、マスクの正しい着用、手洗い、ゼロ密、換気など基本的な感染予防対策を徹底しましょう。

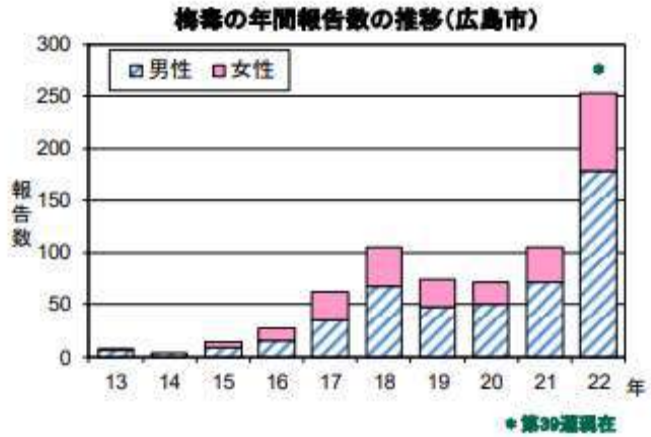
2 梅毒

今年の累計は253件となり、非常に多い状況です。梅毒の主な症状は、感染部位のしこりや鼠径部(脚の付け根)のリンパ節の腫れ、パラ疹(赤い発疹)などです。これらは、痛みやかゆみがないことが多く、症状も自然に軽快しますが、治療しない限り病原体は体内に残っており、他の人にうつす可能性があります。また、治療せずに放置すると、脳や心臓などに重大な病変を起こすこともあるため、早期発見・早期治療が大切です。

【参考】梅毒に関するQ&A(厚生労働省)
https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekaku-kansenshou/seikansenshou/qanda2.html

3 重症熱性血小板減少症候群(SFTS)

1件の報告があり、今年の累計は2件になりました。



■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	過去5年平均(注)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	過去5年平均(注)	発生記号
フィルン	インフルエンザ	-	-	0.17		小児科	流行性耳下腺炎	-	-	0.12	
小児科	咽頭結膜熱	3	0.14	0.19		小児科	RSウイルス感染症	21	0.95	1.33	↓
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	11	0.50	1.16		眼科	急性出血性結膜炎	-	-	-	
	感染性胃腸炎	52	2.36	2.84	◇	眼科	流行性角結膜炎	1	0.13	0.73	
	水痘	-	-	0.14		基幹	細菌性髄膜炎	-	-	-	
	手足口病	20	0.91	1.34	◇		無菌性髄膜炎	-	-	-	
	伝染性紅斑	1	0.05	0.10			マイコプラズマ肺炎	1	0.14	-	
	突発性発しん	6	0.27	0.26			クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
		ヘルパンギーナ	16	0.73	0.68	◇	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	

急増減	↑	前週と比較しておおむね1.2以上の増減
増減	↗	前週と比較しておおむね1.15~2の増減
微増減	↘	前週と比較しておおむね1.1~1.5の増減
横ばい	↔	ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	35
小児科定点数	22
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注)過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■全数把握感染症報告状況(新型コロナウイルス感染症を除く)

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	5	89	40歳代・1人、50歳代・1人、60歳代・2人、90歳代・1人
4	重症熱性血小板減少症候群	1	2	80歳代
4	レジオネラ症	1	27	50歳代
5	急性脳炎	1	9	10歳未満
5	侵襲性肺炎球菌感染症	1	5	30歳代
5	梅毒	14	253	20歳代・4人、30歳代・5人、40歳代・2人、50歳代・3人